

第600号

7・29脱原発国会大包囲

場所日比谷公園中幸門

集会開始 15時半

国会包囲 19時

郵産ちば

2012年 7月21日

発行 郵政産業労働組合千葉支部教宣部

編集責任者 岩井 寛

千葉支部 H・P

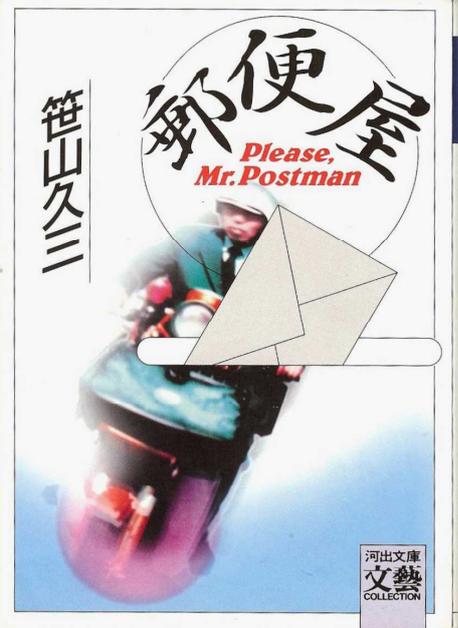
<http://yusanro-chiba.jp/>

追い詰めるのは仲間だ

「実績ゼロ者は班の足を引張っている」という認識を持ちたいというのは間違いない。『周り』で指導されて下さい。」

浦安支店集配課で行われている各班の「営業推進リーダー」を集めた月例会議での業務企画室長の発言です。

営業のノルマを個人単位では無く班単位でも管理すること、営業の出来ない班員がいれば、別の班員が責任を取らされるという「小集団マネジメン」を表現しています。



菅山久三『郵便屋』(1992 河出書房)
(写真は1994年文庫版)

強化される小集団マネジメントに負けるな 浦安発

私たちは配達の仕事です。要員も無く配達業務に影射されている中で、昇給や安全を犠牲にした過密労働の上、昼休みを潰してまで訪問販売など行えませんでした。訪問販売など行えませんでした。ですから管理者は個別目標を日々追求するばかりか、それでも売らない。売れない者には、周りに責任を課して職場から排除するよう仕向けるのです。

現実には浦安でも、社員の間で「浦安でも、社員の間で「浦安でも、社員の間で」

「小集団マネジメント」は20年前の焼き直し?

「郵政省の方針は小集団管理と、昇格を管理者の裁量で決めてしまおうって制度をセットにして職場を完全に握っちまえてことだ」
(文庫版 233頁)

菅山久三の小説『郵便屋』では、集配職場を舞台として、仕事を通じた人間関係によって歪み追い詰められ壊されていく人間性について描かれています。この中では「完配手当」と「新昇格制度」が、全通本部と郵政当局で推進され、現場の反抗は労使一体の強制配転で弾圧されていくことが触れられています。

出版から20年経ちました。「小集団マネジメント」と「新賃金制度」に生まれ変わり、JP労組と郵政当局によって再び強化と推進がなされようとしています。

「認め合っていく運動を作る他に反撃の姿勢は取れないだろう」
(同 235頁)

反撃の力を一人ひとりを大切に
する「郵政産業労働者ユニオン」
に結集させ職場を変えましょう!

当局に都合の良い職場の秩序は、職場の荒廃をもつて保たれているのです。

営業以外にも広がる小集団管理

今年「営業推進」「コスト削減」「品質向上」「事故防止」の目的ごとに各班3人づつリーダーを設け、支店長以下管理者が顔を並べる月例会議に3人交互に出席させ、リーダーにはスキルで賃金に影響される期間雇用社員も選出されるよう強化されています。

広島支店では、交通事故への懲罰腕章を班全員に着用させる所まで来ています。(『伝送便』No.399)

追い詰めるのも、助け合



前日徹夜でつくったプラカードを掲げ

「個人が自主的に」と17万人 "反原発"の熱気！

毎週的首相官邸行動。そして、29日は国会大包囲行動へ

傍観者じゃいけない

30度を超える東京の代々木公園、「さよなら原発1000万人市民の会」の大江健三郎さん、坂本龍一さん、落合恵子さんなど著名人9名が呼びかけ人となり「さよなら原発10万人集会」が16日に開催された。全労連などの「原発をなくす全国連絡会」は呼びかけに答え、この集会成功に向け取り組んできました。職場の青年組合員は「自分達の将来の問題。みんなで参加し、原

発の再稼働を止めさせよう」と、自ら勉強もし、ニュースも作り広く呼びかけた。彼らがつくったプラカードは、「被爆の危険に晒される」集配労働者としての気持ち伝える内容でした。

「アラブの春」を！

集会は、参加者が17万人に及び、呼びかけ人がひとり一人挨拶。90歳の瀬戸内寂聴さんは「100年前に自由を奪われた時代がありました。過去の人達が苦勞して、自由を守ったから今日がある。相手が聞かなくても言い続けよう」と。郵政産業ユニオンの真新しいノボリの下に「原発は危険だ」と結集し、街頭で「原発は危険だ」「再稼働やめろ」「未来を守れ」「子どもを守れ」とリズムに合わせて訴え、新宿駅

まで3kmを約1時間30分近くの行進を行ってきました。

「福島のこと沈黙するのは野蛮だ」と自分の信条を訴えたミュージシャンの坂本龍一さんの話に感銘を受けていた期間雇用社員は、「今日参加した人達の声を活かされ、原発ゼロになっていければ」と、感想を語っていました。(岩井)



OBも交え、BBQ(バーベキュー)

昨年続き、15日に書記長の実家(多古)でバーベキューを支部で開催しました。待ち合わせ場所の「あじさい館」(道の駅・多古)に10時に集合、OBの娘さんも参加し、栗山川の遊覧船を楽しんだ後、岩井さん家へ。バーベキューの準備は、お手製のピーマンの肉詰め、枝豆にサラダ、カツオ刺し、焼きそばとみんなで準備。近所の方に頼んだ牛ヒレも到着し、早速、かまど班が野菜や肉を焼きはじめ、ビールで乾杯。OBからは、65歳定年制での「雇止め」後、仕事を探しているが「なかなか見つからない」とことや、各支店の労働実態も話題に。

その後、農家をしている書記長の友人達も子ども連れで、差し入れを持ち合流。「農家の苦勞」や多古米から放射能問題などで話も盛り上がりしました。

近所の子ども達も合流し、OBの娘さんも楽しく遊べ、組合員らも小川にメダカやドジョウを探しに。牛舎も見学し、16時頃には中締めしました。(その以後も書記長は、友人と飲み続け、気がいたら18時に)